

(仮訳)

## プレス・リリース

2022年5月31日

**バーゼル銀行監督委員会は、気候関連金融リスクに関する諸原則を最終化し、暗号資産のプルデンシャルな取扱いの明確化に関する作業を進め、G-SIB 評価手法のレビューのための今後の方針について合意**

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、気候関連金融リスクの実効的な管理と監督のための諸原則を最終化。
- 暗号資産エクスポージャーのプルデンシャルな取扱いの明確化及び第2次市中協議文書の公表に関する作業を進展。
- G-SIB 評価手法に関する欧州銀行同盟内の国境を越えたエクスポージャーの取扱いのレビューを完了。

バーゼル委は5月27日に会合を開き、最終化された気候関連金融リスクの実効的な管理と監督のための諸原則を承認した。また、バーゼル委は、暗号資産のプルデンシャルな取扱いの明確化及び第2次市中協議文書の公表に関する作業を進めたほか、欧州銀行同盟(EBU)の進展をグローバルなシステム上重要な銀行(G-SIBs)の評価手法に反映させるための今後の方針について合意した。加えて、バーゼル委は、ウクライナにおける紛争に起因するものを含め、グローバルな銀行システムに対するリスク及び脆弱性の評価を継続している。

### 気候関連金融リスク

バーゼル委は、最終化された気候関連金融リスクの実効的な管理と監督のための諸原則に合意した。これは、昨年バーゼル委によるこれらの原則に関する市中協議に続くものである。今後数週間以内に公表される予定であるこの原則は、気候関連金融リスクを軽減するためのリスク管理と監督実務を改善するためのプリンシプル・ベースのアプローチを促進することを目指している。これらは、多様な銀行システムに比例的に適応できるように設計されている。

これらの諸原則の公表は、グローバルな銀行システムに対する気候関連金融リスクに対処するための潜在的な措置(開示、監督及び規制措置に及ぶ)に関するバーゼル委の

より広範な評価の一部を構成するものである。バーゼル委は、この先これらの側面にわたる作業についてアップデートを行っていく。バーゼル委は、気候関連金融リスクの取組みに関する他のグローバルなフォーラムとの協力を継続する。

## 暗号資産

バーゼル委は、昨年の最初の市中協議に続き、銀行の暗号資産エクスポージャーのプルデンシャルな取扱いに関する第2次市中協議文書の公表に向けた作業を進めた。最近の進展は、暗号資産から生じるリスクを軽減するため、グローバルな最低限の健全性の枠組みを持つことの重要性を一層強調している。バーゼル委は、外部の関係者から寄せられたフィードバックに基づき、今後1か月のうちに再度市中協議文書を公表する予定であり、本年末頃にプルデンシャルな取扱いを最終化することを視野に入れている。

## G-SIB 評価手法

バーゼル委は、G-SIB 評価手法に関する EBU 域内の国境を越えたエクスポージャーの取扱いについて、対象を絞ったレビューを完了した。バーゼル委は、EBU の発展に関する進捗を認識する。バーゼル委は、G-SIBs の枠組みにおいて、監督上の判断に基づき調整することを許容する現行手法の中で、この進捗を認識することに合意した。

この合意の下では、EBU 域内に本社を置く G-SIBs について2つの G-SIBs スコアを並行して計算し、それらはバケットの割り当てを調整するために利用される。並行して計算されたスコアは、G-SIBs スコアの算出手法において EBU 域内のエクスポージャーを国内エクスポージャーとして扱うことから生じるスコア低下の66%を認識する。バーゼル委の合意は、いかなる銀行の G-SIB としての分類、または EBU 域外の銀行のスコア又はバケットの割り当てにも影響を及ぼすものではない。

EU の当局は、今後、EBU に本部を置く銀行が、並行して計算されたスコアを算出するために必要な対外指標を公表するための手法と要件について、より詳細な説明を公表する予定である。

## グローバルな銀行システムに対するリスクと脆弱性

ウクライナにおける紛争の勃発後、バーゼル委は一連の会合を開催し、グローバルな銀行システムに対するリスク及び脆弱性について議論した。ロシア、ウクライナ及びベラルーシに対する銀行の直接的な金融エクスポージャーは比較的限定されており、管理可能である。加えて、銀行は、制裁を処理し、サイバー脅威の増加に対処しつつ、

オペレーショナル・レジリエンスに焦点を当てている。しかし、理論的には、銀行システムが現在進行中の紛争から影響を受ける可能性のあるいくつかの潜在的な経路が存在する。これらには、商品市場の動向や紛争の影響を受ける金融機関及び非金融機関へのエクスポージャーなど、紛争から生じる間接的、第2次及び第3次の影響が含まれる。マクロ経済見通しの悪化、多くの市場におけるインフレ率及び金利の上昇、並びに広範な資産再評価に起因するリスクも、緊密なモニタリングを要する。こうした背景の下、バーゼル委は、銀行及び監督当局がこれらのリスク及び脆弱性を引き続き注意深くモニタリングし、評価し、緩和することの重要性に留意した。